

機構ホームページ掲載用原稿

団体名	龍谷大学						
事業名	環境保全型農業の実践事例を通じて自然共生型社会づくりを学ぶ —京都府、滋賀県の地域交流を通じて—						
実施期間	2025年5月23日（金）～2025年11月18日（火）						
場所	龍谷大学深草学舎、滋賀県野洲市、京都府京丹後市						
参加者数	外国人留学生	日本人学生	地域住民 (留学生以外の外国人)	地域住民 (外国人除く。地域のスタッフ含)	申請団体スタッフ	その他	合計
	105	315	0	23	12	0	455名

<実施内容>

本事業は、京都府と滋賀県で行われている環境保全型農業の事例地域を訪問し、地域住民と本学在学中の外国人留学生（外国人交換留学生を含む）及び日本人大学生の共同作業や交流を通じて、地域社会が取り組む自然と共生する地域社会づくりの内容や社会的な意義、創造的な価値を学び深く理解する。京都府京丹後市大宮町三重地区・森本地区が取り組むゲンゴロウ里の米づくりを通じた地域づくりの事例と、滋賀県野洲市のせせらぎの郷の住民団体が取り組む滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクトの事例を現場で学び交流する。本事業の実施に当たっては2つの狙いがある。1つ目は、外国人留学生が大学の座学を通じた専門知識の習得だけでなく、専門知識の応用の場として地域社会を深く理解し、地域社会の当事者としての責任感や自信、市民活動への参加意欲の向上につながる。2つ目は、外国人留学生を通じた日本在住の外国人コミュニティに対して、地域社会への関心や理解を高め、地域活動への参加意欲や自信、アクセス方法論の理解などの向上につながる。

<記録写真>



滋賀県須原地区で魚のゆりかご水田（無農薬）の除草作業体験



京丹後市三重・森本地区でゲンゴロウ郷の米作りに取り組む地元農業法人の森本あぐりを見学



龍谷大学深草学舎で参加留学生による交流成果報告会

<参加者からのコメント>

範伯淳さん（修士1年生）（中国）/CHINA

私達は魚のゆりかご水田の取り組みを通して、農業は食料を生産するだけでなく、生き物の命を育み、地域の自然環境を守る重要な役割を担っていることを改めて学んだ。とくに印象的だったのは、農家だけでなく、地域住民、行政、学校、都市住民など多様な主体が関わりながら水田が維持されている点である。子どもたちの環境学習や都市住民の体験参加を通じて、人と人のつながりが生まれ、地域への理解と愛着が深まっていることが感じられた。自然環境の保全と地域交流が一体となることで、持続可能な地域社会が支えられていることを実感した。

劉子寧さん（学部3年生）（中国）/CHINA

活動に参加して、普段の授業では気づけない地域の姿を実際に見ることができた。留学生として都市での生活が中心だった自分にとって、地域の人が当たり前のように自然と関わりながら暮らしている様子は、とても新鮮だった。田んぼを守るために農家さんだけでなく、地域の方や学校、行政まで色々な人が動いていることを知り、「地域ってこういうふうを支えているんだ」と実感した。話を聞く中で、土地への思いの強さや、人とのつながりの温かさも伝わってきて、自分の中で地域のイメージがかなり変わった。環境のことも、机の上だけで考えるのではなく、こういう現場を見ることでやっとう理解が深まるんだと感じた。今回の経験は、留学生として外から日本を見る自分にとって大きな刺激になった。

英語名称（英語版作成用）

団体名	Ryukoku University
事業名	Learning about creating a society that coexists with nature through practical examples of environmentally friendly agriculture -Through regional exchange in Kyoto and Shiga prefectures-